川越時間旅行 4

都市景観課 Tel224-5961

御伊勢塚公園いまむかし

まちの景観は、長い歴史や文化と新しいものが融合して形成されます。普段見慣れた景色でも、視点を変えて見ると、これまでとは違うさまざまな表情を持っていることに気付かされます。

小畔川沿いの御伊勢塚公園（伊勢原町3丁目）には、石のモニュメントが3つあります。これらはいったい何をイメージしたものなのでしょうか。よく見ると、モニュメントにはそれぞれお皿を乗せた頭があり、かわいい目が付いていることがわかります。実は、カッパがモデルになっているのです。これは「カッパの伊勢まいり」という「川越の伝説」に登場する3匹のカッパをモチーフにした作品で、川越ゆかりの彫刻家・関根伸夫さんが制作したものです。

この場所には、かつて御伊勢信仰の対象となる塚があり、名前の由来となりました。今でも公園には、小山のように盛り上がった塚があります。公園に足を運んで塚を探してみてください。川越の歴史とそれを語り継ぐ伝説、そして近代的なモニュメントが溶け込んだ景色が見られる旅。3匹のカッパが案内人を務めます。

農のあるくらし かわごえそだち 4

農政課 Tel224－5939

川越の茶

茶は温暖多雨な環境に生育するため、埼玉県は茶の産地として、栽培が産業として成り立つ北限に位置します。このため、3～5回摘み取る他の産地と違い、川越産の茶は1～2回しか摘み取れません。年間収穫量が少ない反面、葉肉の厚い茶葉が収穫でき、甘く濃厚な味の茶になると言われています。川越と茶の関わりは古く、14世紀の書物には、銘茶として「河越茶」の記載があります。また、近代製茶機の祖と称えられる高林謙三は製茶の生産コストを下げるための研究を川越で行っていました。現在、川越市茶業協会を中心に、5軒の栽培農家が、狭山茶の製造、販売、加工を行っています。

茶摘みの様子（今福）

今年の新茶は、県が全製茶園の茶を検査し、安全なものだけを販売することとし、5軒全ての製茶園で販売ができるようになりました。歴史ある川越の新茶（狭山茶）を味わってみてはいかがでしょうか。

川合市長に川越の茶の安全性を報告する鈴木邦夫川越茶業協会会長

編集後記 どんぐり

梅雨。じめじめとした季節が明ければ、もう夏です。涼しげな景色を探しに川越八幡宮に出かけました。参道では、ピンクと青に色づいたガクアジサイが雨に濡れていました。

「最近かたつむりを見ないな」と思って、探しましたが見つかりません。子どものころにはよく見かけたかたつむり。今は視線が高くなり、見つけにくくなってしまったのかもしれません。

夏バテを防止するため、野菜を取るようにしています。なすやきゅうりなどは水分を多く含むため、体を冷やす効果があり、食物繊維が豊富なとうもろこしには疲労回復の効果があります。

クレアパークでは、7月21日㈯、午後5時～7時に川越産の野菜や花を販売する「公園夕市」が開催されます（雨天中止）。夕方の散歩の際に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

広報川越1274

■発行日／平成24年7月10日（毎月10日・25日発行）
■発　行／川越市　〒350－8601埼玉県川越市元町1丁目3－1　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
■編　集／広報室 Tel049－224－8811（市役所代表） Fax049－225－2171
■印　刷／㈲新広社

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。 リサイクル適性Ⓐ